

事例3:「みんなで増え鬼しよう！」 5歳児(11月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

- ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性
④思考力の芽生え ⑤言葉による伝え合い

これまでの姿

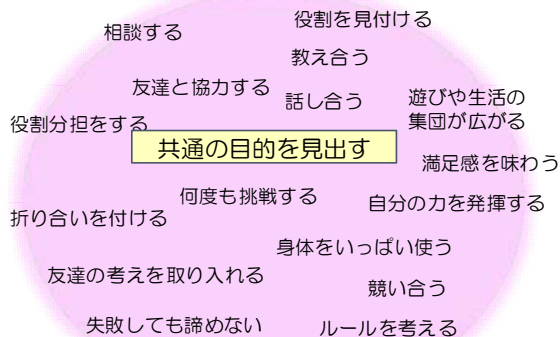
- ・秋の運動会が終わった時期から、「〇〇鬼しよう」と友達や保育者を誘い合って遊ぶ姿が多くなってきた。捕まらないように逃げたり、スリルを楽しみ、わざと近寄ったりして遊んでいる。
- ・仲間が多くなると鬼を一度に決められず困ってしまい、いざこざになることもある。

◎ねらい◎内容

◎集団遊びを楽しむことで、思い切り体を動かす心地よさや、自分たちで作戦を考えて遊びを進める楽しさを味わう。

- 全力で追いかけてたり機敏に逃げたりし合って、繰り返し体を動かして遊ぶ。
- ルールのある遊びを楽しむ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の言葉を聞いたり受け入れたりする。
- 友達同士アイデアを出したり作戦を立てたり、声を掛け合ったりして遊ぶ。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



探究することを楽しむ

遊びの様子(番号:10の姿との関連)

だんだん鬼が増えていくと、鬼同士で早く全員捕まえきろうと**③④「C君をつかまえよう」「はさみうちにする？」**と誘ったり受け入れたりするようになった。また、D児も粘り強く逃げる足の速い**⑥C児を何とか捕まえようと、「こっちからいくから、そっちおねがい」と自ら声を掛け、近くの友達を誘う様子も見られた。**

①逃げる側のC児も鬼の動きをよく見ており、タッチされそうになると、体を反らしたり方向転換をしたりして、相手の動きを見て機敏に体を動かして逃げることを繰り返し楽しんでいった。ついに**②D児たちがすばっこいC児にタッチすることができると、満足そうに「C君にタッチできた！」と声を上げた。**同時に、**②**タッチはされたが最後まで残ったC児も「最後まで残ったよ」と、保育者に嬉しそうな表情で伝えていた。

①②思い切り駆け回った幼児たちは、「みんなタッチできた。もう一回やろう！」と集まって鬼決めをして、何度も繰り返し遊んでいた。

★環境の構成

○保育者の関わり

★年長児が思い切り体を動かして鬼遊びができるよう、年少児の昼食準備の時間など、安全な園庭の使用時間を教職員で打ち合わせておく。

○保育者も一緒に鬼遊びに参加し、集団で体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにしたり、鬼になって捕まえるための作戦を出し合ったりしながら、言葉等でつないでいく。



○幼児が工夫した動きや作戦のよさを言葉にして伝えながら、満足感や充実感につながるよう、楽しさに共感していく。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

②自立心

鬼に捕まらないためにはどうしたらよいかを考え工夫しながら、最後まであきらめずにやり遂げようとしている。



①健康な心と体

増え鬼のルールを理解して、友達と一緒に繰り返し思い切り体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを感じている。



⑨言葉による 伝え合い

思っていることを伝えることで、相手が思っていることが分かり、どうしたら良いか考えることができている。

③協同性

鬼になって友達を追いかけて遊ぶ中で、工夫して一人でも多く捕まえるために、協力してほしい友達に目的や方法を提案したり受け入れたり、足の速い友達にタッチする作戦を考えて伝え一緒に実現したりしようとしている。



「増え鬼」遊びのプロセス

集団で繰り返し遊ぶ

提案する・工夫する ← 折り合い・協力

ルールを知る・作る ← 伝える・受け入れる

誘い誘われる ← 自己発揮する

興味・関心・心地よさ

身体を使って遊ぶ

・安心・安定した生活(基盤)
・保育者の存在・基本的生活習慣

⑥思考力の芽生え

追いかけるスリルを楽しみ、捕まらないためにはどう動けばよいか考え、相手の動きに合わせ、工夫して体を動かしている。

④道徳性・規範意識の芽生え

鬼ごっこのルールを確認したり、行動を振り返る事で、ルールがあることよさに気付くことができている。

小学校教員の気付き

◆鬼遊びを楽しむことを通して、自分たちで考えた作戦を伝え合いながら、ルールを確認したり折り合いを付けている。小学校でも体験的に学ぶ発達段階を考え、自分たちで考える時間を確保しながら指導したい。

◆鬼同士で全員タッチしようと、同じ目的に向かって遊ぶなかで、体を動かす心地よさだけでなく、友達と協力する楽しさも生まれてきた。共通の目的をもって取り組める子供主体の環境を作っていきたい。

保護者への発信ポイント

◆子供たちが夢中になって遊ぶ「鬼遊び」のなかには、「走る」「逃げる」といった身体的な発達だけではなく、作戦を考えたり、友達との折り合いをつけたり、あきらめずやり遂げたりするなど、生きる力の土台となる「非認知能力」が育っていることも伝えていきましょう。